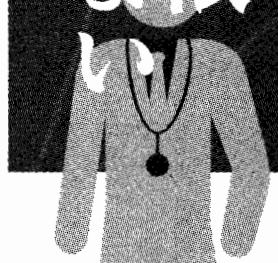


過度な食事制限 しなくてよい

子供の下痢



●今月のドクター●
わたなべ小児科医院
院長
わたなべ
渡部
れいじ
礼二
金沢市泉本町5丁目
51歳

子供はよく下痢をしますし、それに吐き気が加わったこともあります。風邪に伴うこともありますが、それ以外に食中毒といわれるサルモネラや病原大腸菌などの細菌性の腸炎、冬季乳児下痢症などウイルス性の腸炎、乳製品での下痢、アレルギー性の下痢、また抗菌剤などの薬によつても下痢になります。

腸管が防御反応

それぞれ経過も合併症も違いますし、治療法も当然違います。そのためにも糞便を検査する必要があります。水洗便所などの水に浸つてしまつた糞便は検査には不適切です。おむつそのままか、紙コップをおしりに当てがつて採つ

た糞便を持参して医療機関で検査をしてもらつてください。実際、私の診療所で中毒の細菌性の下痢は年間を平均すると週に一人ぐらいが見つかっています。

さて、下痢そのものは体に入つた病原体や毒素などの有害なものを腸管から洗い流す防御反応なのです。つまり、自分で治そうとしているのです。ただ、体から多量の水分が出て行くので、その分を補充しなければなりません。非常に下痢の回数が多い場合は乳幼児用の電解質液が、出た分の水分を補うのに適しています。

ミルクも薄めない

吐き気がある時は脱水にならないよう気をつけなければなりません。原則として吐いた直後に欲しがつても物を与えないようにしてください。時間がたつてから少量の水分（スプーン一杯ほど）から与えてください。消化管に負担の少ない電解質液が一番

かかります。ただし脱水が怖いからといって吐いても吐いても水分を与えること、少しでも栄養を摂って体力をつけようと牛乳や固形物を与え、消化管に

負担をかけて吐かせてしまうこと、逆に吐くのが怖いからといって全く水分も与えないこと（じつといても一定の水分が必要）です。

下痢の時の間違いは下痢をするからと物を与えないこと、ミルクを薄めること、必要以上の食事制限などです。育児書や医学書の一部にも間違つて書かれていますが、将来は訂正されるでしょう



1週間に1人は細菌性下痢患者が訪れる
=金沢市の小児科医院